

バイオ系のキャリアデザイン

就職支援 **OG OB** インタビュー編

Interview ①

日本マイクロバイオファーマ株式会社営業・事業開発部

藤井 良和



出身大学・卒業年度：北海道大学農学院応用生命科学専攻 2011年 博士課程修了
博士論文タイトル：微生物を宿主としたシトクロムP450による微生物変換に関する研究

「現在の仕事について」

◆担当職務

微生物機能を活用した製品の受託案件獲得や自社製品の販売拡大

◆現在までのキャリアパスとその配属での仕事内容
自社研究所でシトクロム P450 の産業応用研究とその成果により3年間の社会人博士課程を経て学位を取得。その後、営業・事業開発部へ異動し、上記担当業務に従事。

◆そこでのやりがい

会社の成長を支える製品の拡販活動を通して製品を広く世に出すこと、会社（仲間）への貢献、技術バックグラウンドを活かして仕事をできることがやりがいです。

◆現在の会社・組織（アカデミアを含む）の魅力

会社の規模的に、一人ひとりに重要な仕事が任せられ、研究開発テーマにおいても優先順位を基準に必要とされる業務を担当できることです。

◆現在の就職を決めた理由

学生時代に山口大学農学部で応用微生物学を専攻しており、微生物機能を活用するための業務に携われると考え、就職を決めました。

◆将来設計（描けるキャリアパス）

自分の技術背景を活かして国内のみならず海外顧客とビジネスができる人材になりたいです。

◆挑戦したいと思っていること

海外赴任が決定しており、その機会に乗じて海外のビジネスパートナーと会社の強みを活かした新たな取組みにチャレンジしたいと考えます。

◆社会人として一番感動したこと

<研究者として>これまで他の研究グループが成功していなかった困難なテーマを与えられ、成功したこと。

<営業マンとして>価格交渉などの際に、顧客に当社の技術を理解させることができ、その価値を認めていただいたこと。

◆社会人として一番困難だったこと&どう乗り越えましたか

懸命に実施するも営業として手がけていた仕事があったくまなく行かず、自信をなくしどのように進めて良いかわからなくなったこともありましたが、周りに悩みを打ち明け、みんなの励ましを受けて乗り越えられました。ありのままの（弱い）自分を認めることも必要と感じました。

◆仕事のプロになるコツ

失敗してもあきらめないこと。次は成功する方法を考えて粘り強くトライすること。

◆博士力、どこで発揮していますか？

研究で成果を出すことは一つの成功体験であり、コツコツ積み上げた結果でもあると思います。研究に関わらず、何か問題に直面したときに、答えを出す方法として研究での経験を活かします。

また、海外でビジネスを行ううえで、博士号を取得していることは、相手に対して、説得力や信頼感をより強める効果があり、役立つと思います。

「人生について」

◆何のために働くのですか？

もちろん家族の生活費用を稼ぐためですが、仕事を通じてやりがいや自己の成長を感じることで充実した生活になります。

◆ワークライフバランスで工夫していること

仕事はスピードにこだわり、時間を作り出すよう心がけています。集中力を要する業務は、朝の頭がすっきりした時間帯に対応し、海外とのやり取りは時差を考え、適

切な時間帯で対応します。作り出した時間を子供との時間や趣味のランニングに使います。

◆現在の夢

研究職のころ解明したメカニズムを応用した製品を他社との協業により製品化まで漕ぎ着けることです。

◆将来の展望

これから一年半のニューヨーク赴任により海外経験を積み、帰国後、海外メーカー対応を中心に事業開発を行っていきたくです。

「後輩へ」

◆学生時代にやっておいたらよかったと思えること
留学経験です。ニューヨーク赴任に際し、心からそのように思っています。

◆その他なんでも、後輩に伝えたいこと

研究も大切ですが、人とのコミュニケーションも大切です。一人でやれることは限られているので、協力して何かを成すとき、その人の人間的な魅力が必要です。研究だけ、仕事だけではなく、いろんな経験をして自信に満ちた魅力ある人間に成りたいと思います。

連絡先 E-mail: fujii-ysk@microbiopharm.com

Interview ②

国立研究開発法人科学技術振興機構研究開発戦略センター (JST-CRDS)

西野 恒代

出身大学・卒業年度：奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科 2008年 修士課程修了
修士論文タイトル：シロイヌナズナの細胞体ストレス応答で誘導される遺伝子TIN1の機能解析



「現在の仕事について」

◆担当職務

国内外におけるバイオサイエンス分野の研究開発や政策の動向を調査および分析し、課題の抽出を行います。そして、それらを解決しうる政策や戦略を作り込み、報告書としてまとめるとともに、提言を行っています。戦略については各省庁やアカデミア、企業といった多方面の方々との議論を通じ、作り込むことを繰り返し、現状に適した形にブラッシュアップしていきます。

◆現在までのキャリアパスとその配属での仕事内容

2008年に協和発酵バイオ(株)に入社し、発酵生産の基礎・応用研究に従事していました。2015年からJST-CRDSへ出向中です。

◆そこでのやりがい

費やした労力が実質的な出口へ還元され、それを実感できることです。入社から、茨城県つくば市の研究所では基礎研究を、山口県防府市の研究所では製造に近づけた応用研究を経験しました。その中で、携わった研究が企業内で製品へどのようにつながるのかを肌で感じる事ができました。また、多くの人に関わって製品が成り立つ

ていることを知り、人との出会い、関係づくりの大切さを再確認できました。

◆現在の会社・組織(アカデミアを含む)の魅力

日々の業務が大変刺激的だという点です。幅広いバイオサイエンス分野で日々更新・発見される情報を調査し、日本の強み弱みを踏まえた分析によって、現状の研究現場で可能な形として戦略を考案する必要があります。そのため、多様な分野の先生方からご意見を直接伺うことで、書面から学ぶことのできない見解や新しい視点を広げています。

◆現在の就職を決めた理由

協和発酵バイオ(株)への就職は、市場要求を実現する「生物を用いた物質生産」である、発酵生産を研究できることが決め手でした。一方、前職での一分野の研究に深く取り組むことも充実しておりましたが、現職へは、広い視野でバイオサイエンス全体を学びなおす機会が得られると感じて決めました。

◆将来設計(描けるキャリアパス)

学んだバイオサイエンスの知見を活用し、市場調査および独自技術の応用・融合などを考案するなど。

◆挑戦したいと思っていること

バイオサイエンスの成果を、多くの人々の生活に還元できるつながりを少しでも多く作りたいです。そのためにも、いまは沢山の方々と出会い、考えを交換できる機会を増やしたいです。

◆社会人として一番感動したこと

職場には色々な人がいて、さまざまな考えがあり、ごちゃごちゃで成り立っていると気づいたことです。学生時代は植物を研究しており、入社当初は発酵研究をうまくできるのか不安でしたが、だからこそ違った見方ができると思えるようになりました。

また、どの職場においても、相談や無駄話に付き合ってくれる同僚や先輩が近くにいることです。忙しい中でも色々な考えや情報を与えてくれ、視点を広げてもらうとともに、私の話をうまくまとめてくれます。学生時代だけではなく、会社に入ってもこのような環境にいれることは、私にとって大きな励みになっています。

◆仕事のプロになるコツ

自分の仕事が、どのような全体像のどの位置にあるかを知ったうえで取り組むことです。自分の取り組み方で影響される幅がわかり、仕事を最低限にこなすだけでなく、もう一步の踏み込みで得られるプラスの成果が具体的に想像でき、やる気につながります。また、一連に関わる人々を知ること、仕事に対する責任感を持つことができます。

◆理系人材力、どこで発揮していますか？

多くの資料データを組み合わせ、必要な形として抽出することです。これは、実験データの解析と大変似ていると感じています。また、考察し、新たなデータを組み込んで練り直す過程も、研究で学んだ取組み方がベースになっています。

「人生について」

◆何のために働くのですか？

農家で育ったためか、小さな頃から生物が好きでした。この生物の面白さや素晴らしさを少しでも人の生活につなげ、感じてもらえたら、という気持ちが、私が働くことの基礎だと思っています。

◆ご自分にとって、お金を稼ぐ意味

仕事への対価だと思っています。このため、自分の仕事に必要性を示せるよう、個性と責任を持って取り組むように心がけています。

◆ワークライフバランスで工夫していること

社会に出て、色々な経験をする中で、面白いと思える仕事ができることは大変幸せなのだと思いました。そのため、いまは自分のできる精一杯で仕事に取り組みたいと思っています。ただし、集中して取り組むと楽しくなってしまう、つい時間を忘れがちなため、最終帰宅時間は決めています。

◆現在の夢

バイオサイエンス分野に限らず、色々な人と出会っていきたいです。人それぞれに経験と知識があり、だからこそ個々の考え方を持っています。それらに触れ、刺激をもらい、学ぶ中で、広い視野を持てる、そして、自分自身も刺激を与えられる人になることが夢です。

「後輩へ」

◆学生時代にやっておいたらよかったと思えること

「やりたい」と思ったことは少し無理をしてもやっておけば良かったです。たとえば、留学、インターンシップ、研究・勉強に没頭、ひとり旅、など。就職してからやったこともあります。ひとつ経験すると次の新しい「やりたい」ことができ、尽きることがありません。学生の立場と自由さがあればもっとやりやすかったとも感じます。また、あの時やっていたら、今の自分とは違った道も見えていたかもしれません。

◆その他なんでも、後輩に伝えたいこと

一般的ですが、経験や人とのつながりはとても大切だと思います。気軽に色々なことを試してもらいたいです。そして、新しく試すことは次の機会や出会いをつなげてくれると思います。私自身、苦手な局面や、失敗することもあり、尻込みすることが多いので、積極的に改善したい点でもあります。

連絡先 E-mail: tsuneyo.nishino@jst.go.jp